

別表 ( 学部の学科、研究科の専攻等 )

学部の学科、研究科の専攻等名	収容定員	収容数	定員充足率
	(a)	(b)	(b)/(a)×100
	(人)	(人)	(%)
文学部	760	892	117.4
人文学科	760	892	117.4
教育学部	220	255	115.9
教育学科	220	255	115.9
法学部	870	1,035	119.0
法学課程	870	1,035	119.0
経済学部*	760	844	111.1
経済学科	300	355	118.3
経営学科	270	289	107.0
1年次(学科分属前)	190	200	105.3
理学部*	1,200	1,317	109.8
数学科	150	163	108.7
物理学科	105	124	118.1
化学科	225	234	104.0
生物科学科	240	254	105.8
地球科学科	180	192	106.7
1年次(学科分属前)	300	350	116.7
医学部	950	991	104.3
医学科	590	609	103.2
(うち医師養成に係る分野)	(590)	(609)	(103.2)
保健学科	360	382	106.1
歯学部	360	366	101.7
歯学科	360	366	101.7
(うち歯科医師養成に係る分野)	(360)	(366)	(101.7)
薬学部	320	337	105.3
総合薬学科	320	337	105.3
工学部*	2,700	2,972	110.1
材料工学科	16	143	119.2
応用化学科	16	223	106.2
情報工学科	16	191	106.1
電子工学科	16	190	105.6
システム工学科	16	205	113.9
応用物理学科	16	178	118.7
原子工学科	16	133	110.8
機械工学科	16	269	112.1
土木工学科	16	252	105.0
建築都市学科	16	143	105.9
環境工学科	16	169	102.4
資源開発工学科	16	94	104.4
3年次編入学(各学科共通)	20	47	235.0
1年次(学科分属前)	670	735	109.7
農学部*	860	940	109.3
生物資源科学科	108	115	106.5
応用生命科学科	90	93	103.3
生物機能化学科	105	113	107.6
森林科学科	108	119	110.2
畜産科学科	69	74	107.2

学部の学科、研究科の専攻等名	収容定員	収容数	定員充足率
農業工学科	90	102	113.3
農業経済学科	75	82	109.3
1年次(学科分属前)	215	242	112.6
獣医学部	240	255	106.3
獣医学科	240	255	106.3
水産学部*	860	909	105.7
水産海洋科学科	120	137	114.2
海洋生産システム学科	120	150	125.0
海洋生物生産科学科	180	198	110.0
海洋生物資源化学科	180	191	106.1
水産教員養成課程	45	0	0.0
(うち水産教員養成に係る分野)	(45)	(0)	(0.0)
1年次(学科分属前)	215	233	108.4
合計	10,100	11,113	110.0
文学研究科	413	540	130.8
思想化学専攻	63	84	133.3
(うち修士課程)	(36)	(53)	(147.2)
博士課程)	(27)	(31)	(114.8)
歴史地域文化専攻	165	230	139.4
(うち修士課程)	(92)	(109)	(118.5)
博士課程)	(73)	(121)	(165.8)
言語文学専攻	101	124	122.8
(うち修士課程)	(60)	(63)	(105.0)
博士課程)	(41)	(61)	(148.8)
人間システム科学専攻	84	102	121.4
(うち修士課程)	(48)	(47)	(97.9)
博士課程)	(36)	(55)	(152.8)
教育学研究科	153	209	136.6
教育学専攻	153	209	136.6
(うち修士課程)	(90)	(115)	(127.8)
博士課程)	(63)	(94)	(149.2)
法学研究科	309	356	115.2
法学政治学専攻	109	160	146.8
(うち修士課程)	(50)	(98)	(196.0)
博士課程)	(59)	(62)	(105.1)
法律実務専攻	200	196	98.0
(専門職学位課程)			
経済学研究科	179	173	96.6
現代経済経営専攻	45	41	91.1
(うち修士課程)	(30)	(31)	(103.3)
博士課程)	(15)	(10)	(66.7)
会計情報専攻	20	21	105.0
(専門職学位課程)			
経済システム専攻	16	35	97.2
(うち修士課程)	(18)	(16)	(88.9)
博士課程)	(18)	(19)	(105.6)
現代経済経営専攻	16	54	122.7
(うち修士課程)	(22)	(32)	(145.5)
博士課程)	(22)	(22)	(100.0)
経営情報専攻	16	34	64.7
(うち修士課程)	(22)	(18)	(81.8)
博士課程)	(12)	(4)	(33.3)

学部の学科、研究科の専攻等名	収容定員	収容数	定員充足率
	(a)	(b)	(b)/(a) × 100
	(名)	(名)	(%)
理学研究科	744	747	100.4
数学専攻	158	132	83.5
(うち修士課程)	(92)	(88)	(95.7)
博士課程)	(66)	(44)	(66.7)
物理学専攻	135	113	83.7
(うち修士課程)	(78)	(77)	(98.7)
博士課程)	(57)	(36)	(63.2)
化学専攻	165	184	111.5
(うち修士課程)	(96)	(132)	(137.5)
博士課程)	(69)	(52)	(75.4)
生物科学専攻	156	202	129.5
(うち修士課程)	(90)	(126)	(140.0)
博士課程)	(66)	(76)	(115.2)
地球惑星科学専攻	130	116	89.2
(うち修士課程)	(76)	(68)	(89.5)
博士課程)	(54)	(48)	(88.9)
医学研究科	480	526	109.6
医科学専攻	40	72	180.0
(修士課程)			
生体機能学専攻	80	20	25.0
(博士課程)			
病態制御学専攻	120	186	155.0
(博士課程)			
高次診断治療学専攻	96	130	135.4
(博士課程)			
癌医学専攻	48	56	116.7
(博士課程)			
脳科学専攻	56	27	48.2
(博士課程)			
社会医学専攻	40	35	87.5
(博士課程)			
歯学研究科	168	154	91.7
口腔医学専攻	168	154	91.7
(博士課程)			
薬学研究科	146	204	139.7
生体分子薬学専攻	51	71	139.2
(うち修士課程)	(30)	(48)	(160.0)
博士課程)	(21)	(23)	(109.5)
創薬化学専攻	51	78	152.9
(うち修士課程)	(30)	(46)	(153.3)
博士課程)	(21)	(32)	(152.4)
医療薬学専攻	44	55	125.0
(うち修士課程)	(26)	(37)	(142.3)
博士課程)	(18)	(18)	(100.0)
工学研究科	933	1,030	110.4
応用物理学専攻	42	37	88.1
(うち修士課程)	(34)	(33)	(97.1)
博士課程)	(8)	(4)	(50.0)
有機プロセス工学専攻	31	26	83.9
(うち修士課程)	(25)	(23)	(92.0)
博士課程)	(6)	(3)	(50.0)
生物機能高分子専攻	25	24	96.0
(うち修士課程)	(20)	(20)	(100.0)
博士課程)	(5)	(4)	(80.0)

学部の学科、研究科の専攻等名	収容定員	収容数	定員充足率
物質化学専攻	22	24	109.1
(うち修士課程)	(17)	(20)	(117.6)
博士課程)	(5)	(4)	(80.0)
材料科学専攻	37	25	67.6
(うち修士課程)	(30)	(21)	(70.0)
博士課程)	(7)	(4)	(57.1)
機械宇宙工学専攻	26	27	103.8
(うち修士課程)	(21)	(26)	(123.8)
博士課程)	(5)	(1)	(20.0)
人間機械システムデザイン専攻	25	29	116.0
(うち修士課程)	(20)	(24)	(120.0)
博士課程)	(5)	(5)	(100.0)
エネルギー環境システム専攻	25	31	124.0
(うち修士課程)	(20)	(27)	(135.0)
博士課程)	(5)	(4)	(80.0)
量子理工学専攻	22	21	95.5
(うち修士課程)	(17)	(18)	(105.9)
博士課程)	(5)	(3)	(60.0)
環境フィールド工学専攻	28	24	85.7
(うち修士課程)	(23)	(24)	(104.3)
博士課程)	(5)	(0)	(0.0)
北方圏環境政策工学専攻	23	23	100.0
(うち修士課程)	(18)	(23)	(127.8)
博士課程)	(5)	(0)	(0.0)
建築都市空間デザイン専攻	23	33	143.5
(うち修士課程)	(18)	(27)	(150.0)
博士課程)	(5)	(6)	(120.0)
空間性能システム専攻	27	35	129.6
(うち修士課程)	(22)	(28)	(127.3)
博士課程)	(5)	(7)	(140.0)
環境創生工学専攻	35	34	97.1
(うち修士課程)	(28)	(32)	(114.3)
博士課程)	(7)	(2)	(28.6)
環境循環システム専攻	34	30	88.2
(うち修士課程)	(27)	(27)	(100.0)
博士課程)	(7)	(3)	(42.9)
システム情報工学専攻	15	24	88.9
(うち修士課程)	(0)	(0)	(-)
博士課程)	(27)	(24)	(88.9)
電子情報工学専攻	15	36	156.5
(うち修士課程)	(0)	(0)	(-)
博士課程)	(23)	(36)	(156.5)
物質工学専攻	16	66	113.8
(うち修士課程)	(30)	(48)	(160.0)
博士課程)	(28)	(18)	(64.3)
分子化学専攻	16	55	83.3
(うち修士課程)	(34)	(42)	(123.5)
博士課程)	(32)	(13)	(40.6)
量子物理学専攻	16	57	78.9
(うち修士課程)	(29)	(38)	(131.0)
博士課程)	(28)	(7)	(25.0)
量子エネルギー工学専攻	16	29	70.7
(うち修士課程)	(21)	(21)	(100.0)
博士課程)	(20)	(8)	(40.0)
機械科学専攻	16	82	126.2
(うち修士課程)	(33)	(64)	(193.9)
博士課程)	(32)	(18)	(56.3)
社会基盤工学専攻	16	74	139.6
(うち修士課程)	(27)	(54)	(200.0)
博士課程)	(26)	(20)	(76.9)

学部の学科、研究科の専攻等名	収容定員	収容数	定員充足率
	(a)	(b)	(b)/(a)×100
	(名)	(名)	(%)
都市環境工学専攻 1 6	6 5	1 1 2	1 7 2 . 3
(うち修士課程)	( 3 3 )	( 7 4 )	( 2 2 4 . 2 )
(うち博士課程)	( 3 2 )	( 3 8 )	( 1 1 8 . 8 )
環境資源工学専攻 1 6	5 3	8 4	1 5 8 . 5
(うち修士課程)	( 2 7 )	( 6 1 )	( 2 2 5 . 9 )
(うち博士課程)	( 2 6 )	( 2 3 )	( 8 8 . 5 )
農学研究科	4 7 3	5 6 9	1 2 0 . 3
生物資源生産学専攻	1 8 9	2 2 1	1 1 6 . 9
(うち修士課程)	( 1 1 0 )	( 1 3 4 )	( 1 2 1 . 8 )
(うち博士課程)	( 7 9 )	( 8 7 )	( 1 1 0 . 1 )
環境資源学専攻	1 4 9	1 6 3	1 0 9 . 4
(うち修士課程)	( 8 5 )	( 1 0 8 )	( 1 2 7 . 1 )
(うち博士課程)	( 6 4 )	( 5 5 )	( 8 5 . 9 )
応用生命科学専攻	1 3 5	1 8 5	1 3 7 . 0
(うち修士課程)	( 7 8 )	( 1 3 6 )	( 1 7 4 . 4 )
(うち博士課程)	( 5 7 )	( 4 9 )	( 8 6 . 0 )
獣医学研究科	9 1	6 7	7 3 . 6
獣医学専攻	9 1	6 7	7 3 . 6
(博士課程)			
水産科学研究科	1 6 2	2 0 7	1 2 7 . 8
環境生物資源科学専攻 1 6	8 5	1 1 7	1 3 7 . 6
(うち修士課程)	( 4 3 )	( 5 8 )	( 1 3 4 . 9 )
(うち博士課程)	( 4 2 )	( 5 9 )	( 1 4 0 . 5 )
生命資源科学専攻 1 6	7 7	9 0	1 1 6 . 9
(うち修士課程)	( 3 9 )	( 5 5 )	( 1 4 1 . 0 )
(うち博士課程)	( 3 8 )	( 3 5 )	( 9 2 . 1 )
地球環境科学研究科	2 3 8	2 5 0	1 0 5 . 0
地圏環境科学専攻 1 6	5 5	4 0	7 2 . 7
(うち修士課程)	( 2 9 )	( 2 5 )	( 8 6 . 2 )
(うち博士課程)	( 2 6 )	( 1 5 )	( 5 7 . 7 )
生態環境科学専攻 1 6	8 1	8 1	1 0 0 . 0
(うち修士課程)	( 4 3 )	( 3 1 )	( 7 2 . 1 )
(うち博士課程)	( 3 8 )	( 5 0 )	( 1 3 1 . 6 )
物質環境科学専攻 1 6	4 5	7 0	1 5 5 . 6
(うち修士課程)	( 2 3 )	( 4 5 )	( 1 9 5 . 7 )
(うち博士課程)	( 2 2 )	( 2 5 )	( 1 1 3 . 6 )
大気海洋圏環境科学専攻 1 6	5 7	5 9	1 0 3 . 5
(うち修士課程)	( 3 1 )	( 3 2 )	( 1 0 3 . 2 )
(うち博士課程)	( 2 6 )	( 2 7 )	( 1 0 3 . 8 )
国際広報メディア研究科	9 6	1 1 7	1 2 1 . 9
国際広報メディア専攻	9 6	1 1 7	1 2 1 . 9
(うち修士課程)	( 5 4 )	( 6 9 )	( 1 2 7 . 8 )
(うち博士課程)	( 4 2 )	( 4 8 )	( 1 1 4 . 3 )
情報科学研究科	4 3 8	4 3 4	9 9 . 1
複合情報学専攻	5 6	7 9	1 4 1 . 1
(うち修士課程)	( 4 8 )	( 6 5 )	( 1 3 5 . 4 )
(うち博士課程)	( 8 )	( 1 4 )	( 1 7 5 . 0 )
コンピュータサイエンス専攻	6 4	5 4	8 4 . 4
(うち修士課程)	( 4 8 )	( 4 7 )	( 9 7 . 9 )
(うち博士課程)	( 1 6 )	( 7 )	( 4 3 . 8 )
情報エレクトロニクス専攻	9 4	8 4	8 9 . 4
(うち修士課程)	( 7 8 )	( 6 6 )	( 8 4 . 6 )
(うち博士課程)	( 1 6 )	( 1 8 )	( 1 1 2 . 5 )

学部の学科、研究科の専攻等名	収容定員	収容数	定員充足率
生命人間情報科学専攻	7 8	5 8	7 4 . 4
(うち修士課程)	( 6 6 )	( 4 7 )	( 7 1 . 2 )
(うち博士課程)	( 1 2 )	( 1 1 )	( 9 1 . 7 )
メディアネットワーク専攻	7 6	9 6	1 2 6 . 3
(うち修士課程)	( 6 0 )	( 7 6 )	( 1 2 6 . 7 )
(うち博士課程)	( 1 6 )	( 2 0 )	( 1 2 5 . 0 )
システム情報科学専攻	7 0	6 3	9 0 . 0
(うち修士課程)	( 5 4 )	( 5 4 )	( 1 0 0 . 0 )
(うち博士課程)	( 1 6 )	( 9 )	( 5 6 . 3 )
水産科学院	1 2 5	1 4 3	1 1 4 . 4
海洋生物資源科学専攻	6 0	7 0	1 1 6 . 7
(うち修士課程)	( 4 3 )	( 5 1 )	( 1 1 8 . 6 )
(うち博士課程)	( 1 7 )	( 1 9 )	( 1 1 1 . 8 )
海洋応用生命科学専攻	6 5	7 3	1 1 2 . 3
(うち修士課程)	( 4 7 )	( 6 3 )	( 1 3 4 . 0 )
(うち博士課程)	( 1 8 )	( 1 0 )	( 5 5 . 6 )
環境科学院	2 2 5	2 0 5	9 1 . 1
環境起学専攻	5 9	3 1	5 2 . 5
(うち修士課程)	( 4 4 )	( 2 3 )	( 5 2 . 3 )
(うち博士課程)	( 1 5 )	( 8 )	( 5 3 . 3 )
地球圏科学専攻	5 2	4 6	8 8 . 5
(うち修士課程)	( 3 7 )	( 3 4 )	( 9 1 . 9 )
(うち博士課程)	( 1 5 )	( 1 2 )	( 8 0 . 0 )
生物圏科学専攻	7 5	8 1	1 0 8 . 0
(うち修士課程)	( 5 2 )	( 6 2 )	( 1 1 9 . 2 )
(うち博士課程)	( 2 3 )	( 1 9 )	( 8 2 . 6 )
環境物質科学専攻	3 9	4 7	1 2 0 . 5
(うち修士課程)	( 2 8 )	( 3 8 )	( 1 3 5 . 7 )
(うち博士課程)	( 1 1 )	( 9 )	( 8 1 . 8 )
公共政策学教育部	3 0	4 2	1 4 0 . 0
公共政策学専攻	3 0	4 2	1 4 0 . 0
(専門職学位課程)			
合 計	5 , 4 0 3	5 , 9 7 3	1 1 0 . 5
(修士課程)	( 2 , 7 4 0 )	( 3 , 3 7 0 )	( 1 2 3 . 0 )
(博士課程)	( 2 , 4 1 3 )	( 2 , 3 4 4 )	( 9 7 . 1 )
(専門職学位課程)	( 2 5 0 )	( 2 5 9 )	( 1 0 3 . 6 )
医療技術短期大学部	2 2 0	2 3 3	1 0 5 . 9
看護学科 1 5	8 0	8 2	1 0 2 . 5
理学療法学科 1 5	2 0	2 1	1 0 5 . 0
作業療法学科 1 5	2 0	2 3	1 1 5 . 0
衛生技術学科 1 5	4 0	3 9	9 7 . 5
診療放射線技術学科 1 5	4 0	4 8	1 2 0 . 0
専攻科助産学特別専攻	2 0	2 0	1 0 0 . 0
合 計	2 2 0	2 2 3	1 0 5 . 9

(注1) 15を付した研究科の専攻及び医療技術短期大学部の学科は、平成15年度入学者をもって募集を停止した専攻及び学科を、16を付した研究科の専攻及び学部の学科は、平成16年度をもって募集を停止した専攻及び学科を示す。

(注2) \*を付した学部の各学科における収容定員及び収容数は、2~4年次を示す。

計画の実施状況等

1 収容定員と収容数に±15%を超える差がある主な理由

【学士課程】

学部の学科等	主な理由
文学部 ・人文科学科(+)	公務員・民間企業等への就職率の低下による就職希望者の留年及び大学院進学希望者による留年のため、4年次の在籍者数が突出して多く、収容数が超過した。
教育学部 ・教育学科(+)	公務員・教員採用試験等の受験希望者による留年のため、収容数が超過した。
法学部 ・法学課程(+)	司法試験及び公務員試験等の受験希望者による留年のため、収容数が超過した。
経済学部 ・経済学科(+)	公務員・民間企業等への就職率の低下による留年者が依然相当数存在するため、収容数が超過した。
理学部 ・物理学科(+)	教育に支障をきたさない範囲での編入学生の受入れ増により、3・4年次学生が増えたため、収容数が超過した。
工学部 ・材料工学科(+) ・応用物理学科(+) ・3年次編入学(+)	留年者が多かったため、収容数が超過した。 なお、留年学生に対しては、メンター教育・インタビューなどきめ細かな対応をしている。 入学形態の多様化を推進すべく、学部教育及び各学科での教育に支障のない限りで3年次編入学希望者を積極的に受け入れている。なお、学部学生全体に占める編入学生の割合は、1.6%であり教育上の問題はない。
水産学部 ・海洋生産システム学科(+) ・水産教員養成課程(各学科共通)(-)	3年次進級時の全学教育の単位未修得者による留年のため、収容数が超過した。 水産教員養成課程の学生定員については、各学科に均等になるよう学生を配属しているため、本課程の収容数は0人となった。 なお、本学部においては、平成18年度からの組織再編に伴い、同課程の収容定員について見直した。

【修士課程】

研究科の専攻等	主な理由
文学研究科 ・思想文化学専攻(+) ・歴史地域文化学専攻(+)	研究領域の特性として先行研究を踏まえるために時間を要すること、社会人学生が論文執筆の時間確保が困難なことによる留年があった。また、フィールドワークにおける資料収集や、外国語の文献読解力の習得に時間を要し、修士論文作成に時間がかかっている学生があり、収容数が超過した。
教育学研究科 ・教育学専攻(+)	定員と入学者数はほぼ同数であるが、社会人特別選抜を実施して積極的に社会人を受け入れており、社会人の占める割合が高い(42.6%)ことが特徴となっている。社会人学生は、職業に就いている等の理由により、標準修業年限を超えて在学する傾向が強いため、収容数が超過した。
法学研究科 ・法学政治学専攻(+)	司法試験及び公務員試験等の資格試験受験希望者による留年のため、収容数が超過した。
経済学研究科 ・現代経済経営専攻(+)	就職未決定者の自発的留年の増加や、社会人学生等で修士論文を提出できずに在籍している者が増加したため、収容数が超過した。 なお、本研究科においては平成17年度の組織再編に伴い、左記専攻の学生募集を中止した。

・経営情報専攻(-)	本専攻は主に会計学を柱にしており、税理士法改正の影響により、平成14年度以降入学者が減少し、収容数が減少した。 なお、本研究科においては平成17年度の組織再編に伴い、左記専攻の学生募集を中止した。
理学研究科 ・化学専攻(+) ・生物科学専攻(+)	入学希望者の増加及び社会的ニーズに応えるとともに、博士課程において優秀な人材を確保するために、教育に支障をきたさない範囲で優秀な学生を入学させたため、収容数が超過した。
医学研究科 ・医科学専攻(+)	修士課程と博士課程の一貫教育による医科学研究者・教育者となる人材の育成を目指し、将来の博士課程(基礎医学分野)への進学を奨励しており、成績優秀者を多く受入れているため、収容数を超過した。
薬学研究科 ・生体分子薬学専攻(+) ・創薬化学専攻(+) ・医療薬学専攻(+)	入学希望者の増加及び社会的ニーズに応えるため、教育に支障をきたさない範囲で優秀な学生を入学させたため、収容数が超過した。
工学研究科 ・物質化学専攻(+) ・機械宇宙工学専攻(+) ・人間機械システムデザイン専攻(+) ・エネルギー環境システム専攻(+) ・北方圏環境政策工学専攻(+) ・建築都市空間デザイン専攻(+) ・空間性能システム専攻(+) ・材料科学専攻(-)	各専攻の修士課程修了者に対する社会的評価は高く、入学希望者の増加及び社会的ニーズに応えるため、教育に支障をきたさない範囲で優秀な学生を入学させたため、収容数が超過した。 本専攻に該当する工学部からの卒業生数が少なかったため、収容数が下回った。
・物質工学専攻(+) ・分子化学専攻(+) ・量子物理工学専攻(+) ・機械科学専攻(+) ・社会基礎工学専攻(+) ・都市環境工学専攻(+) ・環境資源工学専攻(+)	入学希望者の増加及び社会的ニーズに応えるため、教育に支障をきたさない範囲で優秀な学生を入学させたため、収容数が超過した。 なお、本研究科においては平成17年度の組織再編に伴い、左記専攻の学生募集を中止した。
農学研究科 ・生物資源生産学専攻(+) ・環境資源学専攻(+) ・応用生命科学専攻(+)	入学希望者の増加及び社会的ニーズに応えるため、教育に支障をきたさない範囲で優秀な学生を入学させたため、収容数が超過した。
水産科学研究科 ・環境生物資源科学専攻(+) ・生命資源科学専攻(+)	入学希望者の増加及び社会的ニーズに応えるため、教育に支障をきたさない範囲で優秀な学生を入学させたため、収容数が超過した。 なお、本研究科においては平成17年度の組織再編に伴い、左記専攻の学生募集を中止した。
水産科学研究院 ・海洋生物資源科学専攻(+) ・海洋応用生命科学専攻(+)	入学希望者の増加及び社会的ニーズに応えるため、教育に支障をきたさない範囲で優秀な学生を入学させたため、収容数が超過した。
地球環境科学研究科 ・生態環境科学専攻(-) ・物質環境科学専攻(+)	本研究科は学部を持たないため、応募者数が年度によって変動した。 なお、本研究科においては平成17年度の組織再編に伴い、左記専攻の学生募集を中止した。 入学希望者の増加及び社会的ニーズに応えるため、教育に支障をきたさない範囲で優秀な学生を入学させたため、収容数が超過した。 なお、本研究科においては平成17年度の組織再編に伴い、左記専攻の学生募集を中止した。

環境科学科 ・環境起学専攻( - )	本専攻は目的指向・分野統合という新たな概念に基づき、平成17年度に設置した。ほとんどの入学生は2月末の入試、すなわち通常なら補欠募集に相当する時期の入試を受けたため、入学者が少ない。なお、平成18年度入学者については、8月末に入試を行い、定員に相当する入学者数となった。
・生物圏科学専攻( + ) ・環境物質科学専攻( + )	入学希望者の増加及び社会的ニーズに応えるため、教育に支障をきたさない範囲で優秀な学生を入学させたため、収容数が超過した。
国際広報メディア研究科 ・国際広報メディア専攻( + )	入学希望者の増加及び社会的ニーズに応えるため、教育に支障をきたさない範囲で優秀な学生を入学させたため、収容数が超過した。
情報科学研究科 ・複合情報学専攻( + ) ・メディアネットワーク専攻( + )	入学希望者の増加及び社会的ニーズに応えるため、教育に支障をきたさない範囲で優秀な学生を入学させたため、収容数が超過した。
・情報エレクトロニクス専攻( - ) ・生命人間情報科学専攻( - )	平成16年度の本研究科設置時に新設した研究室において、学生を確保するための十分な時間的余裕がなかったことが本年度にも影響している。昨年来、東京で入学試験を実施するなどして定員充足率の向上に努めている。

【博士課程】

研究科の専攻等	主な理由
文学研究科 ・歴史地域文化学専攻( + ) ・言語文学専攻( + ) ・人間システム科学専攻( + )	現地調査による資料収集・分析に時間を要したり、海外留学により留年する学生が多いことなどにより、収容数を超過した。
教育学研究科 ・教育学専攻( + )	定員と入学者数はほぼ同数であるが、社会人特別選抜を実施して積極的に社会人を受け入れており、社会人の占める割合が高い(45.6%)ことが特徴となっている。社会人学生は、職業に就いている等の理由により、標準修業年限を超えて在学する傾向が強いため、収容数が超過した。
経済学研究科 ・現代経済経営専攻( - )	博士課程修了後の就職不安による志願者の減少がある。他面では、近年における就職状況の好転により研究者志願者すなわち博士課程への志願者が減少した。
・経営情報専攻( - )	経過年度において、税理士法改正の影響により、入学者の主なルートである修士課程の学生数が減少した結果、博士課程においても収容数を下回った。なお、本研究科においては平成17年度の組織再編に伴い、左記専攻の学生募集を中止した。
理学研究科 ・数学専攻( - ) ・物理学専攻( - ) ・化学専攻( - )	これらの分野における研究・開発職の需要不足から志願者が少ない。また、教員の辞職・転出等による交替が多く、学生確保に時間不足があったため、収容数を下回った。
・生物化学専攻( + )	過年度入学者(オーバードクター11名)が滞留したため、収容数が超過した。
医学研究科 ・生体機能学専攻( - ) ・脳科学専攻( - )	基礎医学分野から構成される専攻のため志願者が少なく、収容数が下回った。しかし、修士課程医科学専攻において、修士課程と博士課程の一貫教育による医科学研究者・教育者となる人材の育成を目指し、基礎医学分野から構成される専攻への進学を奨励しており、数年後の定員充足率の改善が期待できる。
・病態制御学専攻( + ) ・高次診断治療学専攻( + )	これらの専攻は主に臨床分野から構成されている。地方の医療を支えなければならないという北海道の特殊事情によ

・癌医学専攻( + )	り、臨床系大学院学生のなかには、地域医療に貢献している学生が多い。そのため博士論文の提出が遅れるなど、4年間の標準修業年限を超える学生があり、収容数が超過した。
薬学研究科 ・創薬化学専攻( + )	近年、博士課程入学希望者は減少傾向にあり、毎年入学定員と同程度の数が入学している。しかし、この2年に限り入学希望者が多かったため、教育に支障をきたさない範囲で優秀な学生を入学させたため、収容数が超過した。
工学研究科 ・応用物理学専攻( - ) ・有機プロセス工学専攻( - ) ・生物機能高分子専攻( - ) ・物質化学専攻( - ) ・材料科学専攻( - ) ・機械宇宙工学専攻( - ) ・エネルギー環境システム専攻( - ) ・量子理工学専攻( - ) ・環境フィールド工学専攻( - ) ・北方圏環境政策工学専攻( - ) ・環境創生工学専攻( - ) ・環境循環システム専攻( - )	修士課程修了者に対する社会的評価は高く、求人倍率が極めて高い。よって多くの修士課程修了者が企業に就職してしまう。また、学生の一般的な意識として、博士学位取得後の就職についての不安をぬぐいきれていない。これらの理由によって、収容数が下回る結果となった。また、平成17年度の本研究科の組織再編により専攻が小規模になり、博士課程応募者人数の変動を吸収あるいは平均化できなかった面もある。なお、本研究科においては秋季入学を実施しており、平成17年10月はこれらの専攻全体で16名の入学者があった。
・建築都市空間デザイン専攻( + ) ・空間性能システム専攻( + )	本専攻にかかる社会人博士のニーズが多くなり、入学希望者が多く、また優秀な人材が集まるようになったため、収容数が超過した。また、平成17年度の本研究科の組織再編により専攻が小規模になり、博士課程応募者人数の変動を吸収あるいは平均化できなかった面もある。
・電子情報工学専攻( + ) ・都市環境工学専攻( + )	社会人を含む入学希望者の増加及び社会的ニーズに応えるため、教育に支障をきたさない範囲で優秀な学生を入学させたため、収容数が超過した。なお、本研究科においては平成16・17年度の組織再編に伴い、左記専攻の学生募集を中止した。
・物質工学専攻( - ) ・分子化学専攻( - ) ・量子物理工学専攻( - ) ・量子エネルギー工学専攻( - ) ・機械科学専攻( - ) ・社会基盤工学専攻( - )	修士課程修了者に対する社会的評価は高く、求人倍率が極めて高い。よって多くの修士課程修了者が企業に就職してしまう。また、学生の一般的な意識として、博士学位取得後の就職についての不安をぬぐいきれていない。これらの理由によって、収容数が下回る結果となった。なお、本研究科においては平成17年度の組織再編に伴い、左記専攻の学生募集を中止した。
獣医学研究科 ・獣医学専攻( - )	経済状況の悪化により、博士課程に進学する学生が減り、収容数を下回った。
水産科学研究科 ・環境生物資源科学専攻( + )	修士課程の充足率が高くなったことに起因して、収容数が超過した。なお、本研究科においては平成17年度の組織再編に伴い、左記専攻の学生募集を中止した。
水産科学研究院 ・海洋応用生命科学専攻( - )	修士課程修了者の社会的ニーズが多く、修了時に就職する学生が多いため、収容数が下回った。なお、10月入学の学生が5名あり、その結果、充足率は83.3%となった。
地球環境科学研究科 ・地圏環境科学専攻( - )	14・15年度修士課程修了学生が少なかったため、収容数が下回った。なお、本研究科においては平成17年度の組織再編に伴い、左記専攻の学生募集を中止した。
・生態環境科学専攻( + )	14・15年度修士課程修了学生が多く、進学希望者が優秀であったため、教育に支障をきたさない範囲で学生を入学させ、収容数が超過した。なお、本研究科においては平成17年度の組織再編に伴い、左記専攻の学生募集を中止した。

環境科学院 ・環境起学専攻（-） ・地球圏科学専攻（-） ・生物圏科学専攻（-） ・環境物質科学専攻（-）	環境起学専攻は目的指向・分野統合という新たな概念に基づく専攻であり、専攻間の移動は可能であるものの、設置年度である平成17年度は、他研究科や他大学から入学生を受入れなければならなかったため、入学者が少ない。この状態は通常の入学試験を行った18年度修士課程入学者が博士課程に入学する20年度に解消されると予想している。 その他の専攻は、地球環境科学研究科16年度修士課程修了学生が少なかったため、収容数が下回った。 なお、平成18年度入試からは8月末にも募集を行い、他大学からの入学者が増えた。
情報科学研究科 ・複合情報学専攻（+） ・メディアネットワーク専攻（+） ・コンピュータサイエンス専攻（-） ・システム情報科学専攻（-）	入学希望者の増加及び社会的ニーズに応えるため、教育に支障をきたさない範囲で優秀な学生を入学させたため、収容数が超過した。 平成16年度の本研究科設置時に新設した研究室において、学生を確保するための十分な時間的余裕がなかったことが本年度にも影響している。 広報活動を通して学生の確保に努めるとともに、社会人特別選抜や外国人特別選抜による学生の受入に努力している。

【専門職学位課程】

研究科の専攻等	主な理由
公共政策学教育部 ・公共政策学専攻（+）	平成17年度は設置一年目であり、一回目の入試においては社会人の受験が多く、優秀な受け入れるべき人材が多かったため、教育に支障をきたさない範囲で学生を入学させ、収容数を超過した。

【医療技術短期大学部】

学 科 等	主な理由
・作業療法学科（+） ・診療放射線技術学科（+）	本短期大学部は卒業時に各医療職種の状態試験があるため、進級判定を厳しく行ってきた。このため、留年の学生があり、収容数が超過した。 なお、本短期大学部は平成16年度から学生募集を中止しており、閉校予定の平成19年3月までには全員卒業する予定である。

2 秋季入学の実施状況及び入学者数（平成17年10月）

- 修士課程：法学研究科（0名） 理学研究科（3名） 薬学研究科（0名）  
 工学研究科（7名） 農学研究科（5名） 環境科学院（0名）  
 情報科学研究科（2名）
- 博士課程：法学研究科（2名） 理学研究科（4名） 薬学研究科（4名）  
 工学研究科（19名） 農学研究科（9名） 獣医学研究科（1名）  
 水産科学院（8名） 環境科学院（2名） 情報科学研究科（8名）